Ⅰ．事 業 の 概 要

新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行してから３年が経過し、社会経済活動は段階的に正常化が進みました。飲食・観光など対面型サービスの需要は回復基調を維持し、訪日外国人観光客数も増加傾向が続いています。

一方で、中東情勢等を背景とした原油・資源価格の高騰や円安基調の継続に加え、人手不足の深刻化により、食材費・光熱費・人件費等は依然として高止まりの状況にあり、企業・家計双方にとって厳しい経営環境が続いています。

このような状況のもと、当財団は、九州大学病院における医学研究の奨励助成、患者支援、職員及び学生に対する学事研修支援等を継続して実施し、設立目的に沿った公益目的事業の推進に努めてまいりました。

また、厳しい財務環境を踏まえ、令和７年度においても前年度に引き続き特定寄付金の一部留保を実施しつつ、公益目的事業として約１，８５６万円を支出いたしました。

病院内事業については、外来患者数及び来訪者数の回復に加え、物価上昇の影響もあり、ローソン、ロイヤルホスト、職員食堂、タリーズコーヒーの各事業は概ね順調に推移し、売上高は前年を上回る結果となりました。

特にレストラン事業においては、利用者の少ない時間帯の営業時間の見直しや、職員食堂における価格改定を年度途中の７月に実施するなど、収益改善及び業務効率化に取り組んでまいりました。

しかしながら、ロイヤルホスト及び職員食堂においては、食材費や人件費等の上昇に伴う外注費が増加しており、収益面では引き続き課題が残る状況となりました。

これらの結果、当期の一般正味財産は約６９６万円の減少（当初予算の１/３に縮小）となり、一定の成果を得ることができました。

Ⅱ．事 業 の 内 容

事業については、移行時に策定した公益目的支出計画に沿って、奨励助成事業や患者の支援事業を実施しました。また、その他の事業においても、令和７年度事業計画に基づいて活動を行いました。

（実施事業）

１）医学研究及び学事研修に関する助成事業(特定寄附)

- 学術研究及び医学研究の助成　⇒　当面留保
- 病院運営の助成　⇒　当面留保
- 臨床看護研修の助成

２）患者の慰安に関する支援事業

- 精神科・神経科病棟行事の支援
- 小児科病棟行事の支援
- クリスマスツリー・イルミネーション飾り等の支援
- 入院患者及び家族への宿泊施設の提供

（その他の事業）

１）院内療養施設等の環境の整備事業

- 外来棟及び各階ディールームの観葉植物設置・管理
- ハートセンター庭園の管理運営
- 外来棟玄関庭園の管理運営支援

・ 雛飾り設置の支援
・ 外来患者服用飲料水の提供

2）医療従事者への福利厚生事業

・ グランドラウンドの協賛及び助成
・ 同窓会評議員会及び卒業生入会歓迎会の助成
・ 看護師等教職員向けマンションの貸付

3）入院療養に必要な諸施設等の提供事業

・ 付添寝具の貸出、病衣の配備
・ 入院患者療養設備（テレビ・冷蔵庫・床頭台）の保守管理

4）必需品の販売・貸付・役務の提供事業

・ ローソン九州大学病院店、ウエストウイング棟売店の運営
・ ロイヤルホスト九州大学病院店、ロイヤル職員食堂
・ タリーズコーヒー九州大学病院店
・ 宅急便・電報の取次ぎ及び公衆電話・自動販売機の管理運営
・ コピー・ファクシミリサービス